

今年度、倫理法人会は全国七二五〇〇社  
達を掲げてスタートしました。年度後半を迎  
える中で、各単会がそれぞれに掲げた目標に  
向けて、邁進されていることと思います。

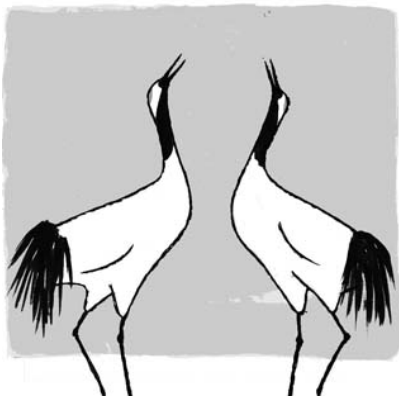
工氏はこれまで地区長や県の役員を歴任し、  
昨年度より単会の会長に就任しました。会員  
社数は三十数社という準倫理法人会でしたが、  
毎日の地道な普及が実を結び、見事一〇〇社  
での設立を果たしたのです。

そして迎えた今年度、工氏は自力のある単  
会をつくっていきこうという思惑で新しい役員  
を選出し、目標を一〇五社にしてスタートを  
切りました。しかし工氏の中では、一〇五社  
という半端な目標ではなく、一三〇社あるい  
は一五〇社という目標を掲げたい との思い  
がありました。

しかし、普及活動自体をまだ理解していな  
いメンバーが多く、無理に押し付けるわけに  
いきません。時間はかかるかもしれないけ  
れど、まず自分が率先して普及に出かけ、基  
本的なことをおろそかにせず、真摯に取り組  
んでいきこう と心に誓いました。

まずは毎週役員会を開催して役員間の意志  
の疎通と情報交換を図り、経営者モーニング  
セミナーの案内は必ず全会員にFAXで発信  
しました。参加できなかった会員には工氏が  
セミナー内容を記したものを送り、次の参加  
につながるよう心がけました。

特に役員会では、普及の状況を単に報告す  
るだけではなく、「この週は何社を回り、入会  
があった・なかった」と具体的に報告を重ね  
ました。すると「今度、A社の経営者に声を  
かけてMSに参加していただき、会員にもな  
ってもらおう」などと、一つひとつの策が具  
体的になっただけです。



## 思い立つか立たぬか ただそれだけである

絵・わたなべじゅんじ

そして昨年十一月の役員会の席上、役員諸  
氏から思いもよらぬ発言が飛び出したのです。  
「I会長、本当はどのくらい普及をしたいん  
ですか？ 一〇五社なんて数字ではないんで  
しょう。どうなんですか」

工氏は「私個人の思いとしては、一三〇社  
はやりたいよね」と言つと、「本音を言つてほ  
しい！」と迫られました。氏は「できる、で  
きないは別にして、一五〇社を目標にしたい  
という思いが強くなる」と返しました。

すると「同じやるんだつたら、中途半端な  
数字ではなく、一五〇社をやるう！ みんな  
でやればできる」という言葉を口々にかけら  
れたのです。年が明けた一月より、一〇五社  
から一五〇社に上方修正をして、改めてスタ  
ートを切ることとなったのです。

企業でも組織でも、同じようなことが言え  
るでしょう。「この社員では成績は伸びない  
と経営者がマイナ斯的な心を持っていては、  
良くなるものも良くなりません。工氏は、決  
して他の役員を責めることはありませんでし  
た。すべてを信じ切り、自身でコツコツと普  
及に取り組んできたことが、役員会の席上で  
結実したのです。普及への土壌を得たI会長  
以下役員は、設定したゴールに向けて雄々し  
い一歩を踏み出しました。

『成就の秘訣』それは別に変わったことがあるの  
ではない。思い立つたらやめなさい。出来上がるま  
でとめなさい。ということである。スタートが良い悪い  
のと言つのは、短距離の競争である。長い人生  
の行路には、速いおそいは問題にならぬ。思い立  
つ(立志)か立たぬか、(中止)止めぬか、ただそれ  
だけである。(丸山敏雄全集、第一巻六九四頁)  
MSで斉唱している「誓いの言葉」を、大  
いに普及へと活かしていきたいものです。